

## 口は健康のもと Vol.137

### 高齢者の根面(セメント質)う蝕

#### ～予防法はていねいな歯磨き～

一般にむし歯は歯の上部(歯冠：表面はエナメル質、内部は象牙質)のう蝕ですが、年を重ねると歯周病により歯を支える骨が吸収し後退します(歯が伸びたように見える)。すると、歯の根(歯根：表面はセメント質)も口の中で露出します。

根の表面のセメント質はエナメル質のように滑らかでなく、汚れが付き不潔になりやすくなります。歯根が露出すると歯と歯の間も大きくなり、食べかす(食渣)が停滞しやすく、歯周病による深い歯周ポケット同様細菌の住処になってしまいます。う蝕や歯周病の原因菌は食渣を分解して局所のpH(酸性度)を低下させて歯を溶かします。歯質が溶け出すpHはエナメル質で5.4、象牙質で6.2であり、セメント質ではさらに弱い酸性度で溶け出します。

根面う蝕はセメント質軟化・剥離が非常にゆっくり進行し、病変部は部黒褐色の着色が強く知覚過敏症状を伴うことが多く見られます。

予防法はむし歯全般と同じ食渣の清掃です。“歯磨き”というと歯ブラシに歯磨き粉を多量に付けてゴシゴシこするというイメージがありますが、セメント質は硬さが小さく摩耗しやすいので、歯磨き粉は少量にして歯の隙間は歯間ブラシ、糸ようじを活用して汚れを丁寧に除去するようにしてください。



奥羽大学歯学部附属病院  
総合歯科 准教授 菊井 徹哉